

水產會法案特別委員會會議事速記録第一號

委員氏名

委員長
副委員長

伯爵吉井 幸藏君
西久保 弘道君
子爵伊集院 兼知君
子爵米津 政賢君
荒川 義太郎君
男爵本田 親濟君
男爵赤松 範一君
平井六右衛門君
平尾 喜三郎君

大正十年三月五日(土曜日)午後一時三十八分開會
○委員長(伯爵吉井幸藏君) ソレデハ是ヨリ水產會法案ノ特別委員會ヲ開キマス、提出ノ理由ヲ政府委員カラ御説明ヲ願ヒマス

○政府委員(村上隆吉君) 此水產會ハ水產業者ト致シマシテハ、多年ノ希望デアリマシテ、屢々請願等モ致シテ居ルヤウナ次第デアリマス次第デアル、又各地方廳ノ意見ヲ尋ネマシタ時ニモ、是非サウ云フモノヲ作ッテ欲シイト云フ希望デアリマスルシ、又毎年農商務省ニ於キマシテ水產主任官ノ會議ヲ各地方カラ集メマシテ、技師達ガ一緒ニ開キマス、其會議ニ諮問イタシマシタ時ニモ、是非サウ云フ組織ヲ作ッテ貰ヒタイト云フ熱心ナル希望ガアリマシタノデス、而シテ政府當局ト致シマシテ、當業者ノ希望ナリ又地方廳ノ意見等モ斟酌イタシマシテ、尙ホ調査イタシマシタ上、矢張り斯ウ云フ法律ヲ制定スルコトノ必要ヲ認メマシテ今回提案イタシタヤウナ次第デアリマス、デ此水產會ノ問題ハ右申上ゲタヤウナ次第デアリマスルデ、其必要ノ理由立法ノ内容等ニ付キマシテ少シ詳シク申上ゲタイト存ジマスルノデ御許シヲ願ヒタイノデアリマス、元來御承知ノ通り此產業行政ノコトニ付キマシテハ段々中央政府ナリ、地方廳ナリノ努力若クハ當業者各個人ノ努力等ヲ以テ致シマセヌトナカ、十分ニ參ラヌノデアリマシテ、殊ニ此當業者ガ自カラ其業務上ノ地位ナリ其他ノコ

トヲ自覺イタシマシテ、サウシテ其自覺ニ基イテ努力スルト云フ途ヲ開キ、サウシテ勉強サセルト云フコトガ産業ノ行政ヲ遺憾ナク行ハシムル上ニ於テ必要ナルコトハ、水產業ニ於キマシテモ他ノ産業ニ於キマシテモ同ジコトナシデアリマス、水產ニ付キマシテ特ニ斯ウ云フ組織ノ必要ヲ感ジマスル事ハ、他ノ産業ニ比シテ著シイ事情ガアルヤウニ存ゼラレルノデアリマス、其ノ主ナル點ハ水產業ハ其ノ業務ノ行ハレマス所ガ主トシテ海面若クハ極メテ僻陬ナ地方ニ行ハレマスノデ、其處ニ於ケル産業ヲ助長シテ行カセマスルニ付キマシテハ、一片ノ法律命令若クハ監督吏員ノ巡回ノミヲ以テハナカナカ十分ニ行ハレマセヌノデ、當業者ガ自覺シテ又殊ニ公共的見地カラ發達セシメナケレバナラヌト云フ自覺ヲ有タセソレヲ守ッテ吳レナケレバナカナカ行ハレ惡イト云フヤウナ事情モアリマスルシ、又其次ニハ漁場ガ海面デアリマスノデ、共通ノ場合ガ多イ、殆ド共通ノ場合デアリマスノデ、又海面ニハ船舶ガ異動シマスコトハ極メテ自由デアリマスカラ、隨ッテ其間ニ種々ナル競争等モ起リマス、此等ノ事情カラ申シマシテモ當業者ノ自覺ヲ必要トスルト云フ事ハ、餘程他ノ産業ト異ッテ居ルヤウニ思ヒマス、又水產業ハ案外ニ學術ナリ技術ナリノ應用ガ面倒デアリマシテ、例ヘバ潮流ノコトニ付テ海洋調査ヲ致シマスルトカ、漁船ノ構造ニ付テ相當ノ知識ヲ要スル、又殊ニ小サイ船デアリナガラ荒海ノ上ニ於テ仕事スルノデアリマスカラ、又其機關等ニ付キマシテモ、普通ノ蒸汽機關等デナクシテ内燃機關デアルトカ、最近ニ至ッテハ「ジゼルエンジン」モ使ヒマス、更ニ養殖等ノ方面ニ於テソレ、技術ノ應用ト云フコトガナカ、面倒デアリマスルト同時ニ、其變化モ随分激シイノデ、要スルニ是カラ發達シヤウト云フ産業デアリマスカラ、技術上ノ變遷ト云フコトモナカ、急激デアリマシテ、サウ云フヤウナ事情ニ能ク適應シテ行キマセヌケレバ産業ハ本當ニ發達シナイ様ナ事情モアリ

マス、隨ッテ之ヲ指導シテ參リマスル上ニ於テモ單ニ行政官廳ノ一片ノ命令ヲ以テ指導スルト云フ事ハ出來マセヌノデ、當業者ノ自身モ能ク覺醒シテ、其共同的の公的の見地カラ見テ努力シナケレバナラヌ、サウ云フ風ニ指導ノ途ヲ開クト云フ事モ特ニサウ云フ事情ガ存シテ居ルカラデアリマス、又殊ニ最近ニ於キマシテ、サウ云フ機關ヲ設ケテ水產業ノ發達ニ努力シナケレバナラヌト云フ事ヲ適切ニ感ジテ居リマスノハ、此近海漁業ノ狀況デアリマス、此近海ニ於テ捕レマス魚ハ、近年物價騰貴其他ノ事情ニ依リマシテ漁獲高ノ金高コソ年々殖エテ居リマス、ケレドモ數量ニ於テハ餘リ殖エマセヌ、而シテ一面ニ於キマシテ「トロール」船ノ發達、發動機船ノ發達ト云フヤウナコトニ依リマシテ、資本モ多ク掛リ、又漁場ガ段段遠クナリマシテ、從來伊豆七島沖合マデ行ッテ居リマシタモノガ、漸次大島方面、近クハ小笠原方面マデ行キマセヌト十分ニ漁ガナイト云フ事情モ存シテ居リマス、漁獲高ハ減リツ、アルト申上ゲル程デアリマセヌガ、資本ガ多クナッタ事、漁場モ廣クナッタ事等、色々擴張又ハ増加シナガラ、其割合ニ漁獲高ハ殖エマセヌ、重要魚類ニ付テハ殆ド此數年來中止ノ狀態ト申シテモ宜イヤウナ狀態デアリマスル事ハ、水產業ノ發達上餘程注意シナケレバナラヌ事ト思ヒマス、而シテ是等ヲ適當ニ措置イタシマスルニ付テハ、或ハ蕃殖保護規定ヲ設ケナケレバナラヌ、又魚類ノ蕃殖スル手段ヲ執ラナケレバナラヌ、是等蕃殖方法、増殖ノ手段ヲ講ジマスルニ付テモ當業者ハ十分自覺シテ成程尤デアルト云フ事ヲ、能ク得心シテ參ラナケレバ行ハレナイト云フコトハ、前申上タヤウナ事情ガアルカラデアリマス、現ニ實例ト致シマシテモ、瀬戸内海ニ漁業取締規則ト云フヤウナ規則ガ出來マシテモ、人民ノ自覺ノ不十分ノ爲ニ中ニ條文通り行ハレナイヤウナ事情モアリマスルシ、又最近發動機船ニ依テ行ハレマスル手續網ノ各種取締規則ヲ制定イタシマシタニ付テモ、當業者ニ能ク了解

セシメテ行キマセヌケレバ、到底完全ナル施行ハ出来ナイト云フヤウナ状態デアルカシ、中々努力シナケレバナラヌト云フ有様デアリマス、サウ云フ状態デアリマスルニ付キマシテハ、矢張り當業者ヲシテ公共の見地カラ、十分ニ研究ヲ致サシメ、議論モ重ネシメ、サウシテ其得タル結果ヲ行政廳ニ於テ斟酌シテ、サウシテ適當ナ判斷ヲ下スト云フヤウナ必要ガ近年殊ニ殖エツ、アルヤウニ存ゼラル、ノデアリマス、而シテ一面ニ時局ノ大勢カラ考ヘマシテ、國民ノ保健的食料品ノ増加ヲ圖ラナケレバナラヌ、又成ルベク廉價ニ供給シナケレバナラヌト云フ事情モアリマスルシ、又海外輸出ニ付キマシテモ、水産物ニ於テハ將來餘程望ミガアルヤウニ存ジマスカラ、是等ノ進歩ニ付テモ亦十分努力イタサナケレバナラヌ、デザウ云フ状態デアリマスカラシテ、之ニ對シテ相當ノ施設ヲ爲シ、又一面ニ於テハ水産業勃興ノ氣運モ近年著シクナタヤウニ存ジマス、ソレカラ從來餘リアリマセヌデシタガ、府縣デモ試驗場トカ分場若クハ實驗場トカ云フヤウナモノモ兩三年來中々殖エルヤウニナリマシタ、又民間「トロール」船、又ハ發動汽船ガ三千八百隻、約十年間ニナルト云フヤウナ事情デアリマシテ、本案ノ期限ハ確ニ滿チテ居ルヤウニ存ゼラレマスル、從ツテ此機會ニ於テ十分ナル指導ヲシテ、十分ニ發達サセルト云フコトハ、必要ダラウト存ジマス、其必要ト致シマスガ爲ニ、今日公共的ノ自治的ノ團體ヲ作リマシテ、十分ナル研究ヲサセテ、又其働キヲ十分ニサセマシテ、一面ニ於テハ政府ノ立テマシタ、又地方廳ノ立テマシタ政策ヲ徹底的ニ行ハシメマスル仲裁ノ機關ノ必要ヲ感ジ、又一面ニ於テハ當業者ノ言ハムト欲スル所ヲ自利的デナク、公共的の見地ヨリ發達セシメナケレバナラヌト云フ意思デ、行政廳ニ徹底セシムルヤウナコトヲサセマスルコトガ、今日ノ時勢ニ於テ是非共必要ト考ヘマシテ、從ツテ本案ノ提出ヲ見タヤウナ次第デアリマス、而シテ本案ノ立法ノ意思ヲ大體申シマスルト、本案ニ付キマシテ最モ重キヲ置キマシタ點ハ、此水産會ナルモノハ之ヲ法人ト致シマシテ、デ法人ト致シマシタコトハ斯ウ云ノ團體ト致シマシテ、仕事ヲ致シ

マスル上ニ於キマシテ、公共的の見地ヨリ仕事ヲサセタイト云フ上ニ於キマシテハ、人格ヲ附シタ團體ニ致サナケレバ到底仕事ガ出来ナイト云フ考カラ、法人ニ致シタ次第デアリマシテ、他ノ商業會議所其他ガ法人デアルト同様デアリマス、而シテ法人ニ付キマシテハ殊ニ公法人ト云フコトニ致サナケレバナラヌ、又致ス必要ガアルト云フコトニ致シマシタノデアリマス、而シテ公法人ト私法人トノ區別ニ付キマシテハ、色々議論モアリマスルガ、要スルニ學說ニ於キマシテモ、又大審院ノ判例等ニ於キマシテモ、國家ノ仕事ニ付テ補助的ノ機關トシテ、又法人ノ全體ノ目的ガ公共的の見地カラ仕事ヲシタイト云フヤウナモノヲ公法人ト認メルト云フコトガ、大體ニ於テ學說ナリ、判決例ナリノ一致シテ居ル所ト思ヒマスルガ、本案ノ立案ニ付キマシテ、又其趣旨ヲ取りマシテ、之ヲ公法人ト致シタ譯デアリマス、而シテ何故ニ公法人トシナケレバナラヌカト云フコトニ付キマシテハ、極ク大體ノコトハ只今モ申上ゲタノデアリマスガ、各種ノ漁業其他ノ水産業ノ實際ニ付キマシテ、極ク簡單ニ卑近ノ例ヲ申上ゲマシテモ種々澤山ナ例ガアルノデアリマス、例ヘバ先程申上ゲラレタ瀬戸内海ノ漁業取締規則ニ付キマシテモ、御承知ノ通り瀬戸内海ノ主要漁業ハ鯛デアリマスルガ、鯛ノ産卵地ト種魚ノ發育致シマスル所、又成魚ノ澤山取レマアル所ハ、各々場所ガ違ッテ居ルト云フヤウナ關係カラシテ、之ヲ一括シテ而シテ全體ノ見地カラ見テ、適當ノ規則ヲ立テナケレバナラヌ、此點ハ或物ノ事情ノミニ依リ、或ハ又當業者ノミニ利益ヲ見テ、規則ヲ作ルト云フ譯ニハ行カナイト云フヤウナ事情ガアリマス、殊ニ屢々問題ガ起キマスノハ、新規事業ト在來漁業ノ牴觸ト云フコトモ始終アリマスルケレドモ、例ヘバ先年「トロール」ガ九州ノ沿岸ニ於テ盛ンナリマシタ時ニ、九州沿岸ノ小漁業者ハ非常ニ之ヲ反對イタシマシタ、而シテ一面カラ言ヒマスルト漁業モ資本的、企業的ノ組織ニナルト云フコトハ當然ノ結果デアリマシテ、又サウ云フ風ニ導カナケレバ到底他ノ産業ト併行シテ行クコトノ出来ナイノハ當然デアリマス、併ナガラ其發達ニ連レテ又一面ニ小漁

業家ガ困ルト云フヤウナ事情モアリマス、サウ云フ時ニ或ハ禁止區域ヲ設ケルトカ、或ハ隻數ヲ制限スルト云フヤウナコトハ、一々公共的の見地カラ之ヲ判斷シナケレバナラヌ、ソレデ單ニ行政廳ノ見ル所ヲ以テセズシテ、關係當業者ガ十分ニ討議ヲシテ、其得タ所ノ結論ヲ斟酌シテ決定スルト云フコトガ、非常ニ必要ナコト、思ヒマス、現ニ此英吉利邊リニ水産ニ關スル委員會ガ出来テ居リマシテ、大體ニ於テ此度ノ提案ハ餘程似通ッテ居ルノデアリマス、ソレ等ニ於キマシテモサウ云フヤウナ漁業ノ取締ニ關スル規定ヲ設ケマスル時ニハ、中央官廳ハ緊急ノ場合ハ已ムヲ得ヌトシテモ、其他ノ場合ニ於テハ必ズ其當業者ノ作ッタ委員會ノ意見ヲ聽イテカラ考慮シヤウ、サウ云フコトヲ法律ニ置イテ居リマスルヤウナ事情ニ照シテ見マシテ、斯ウ云フ必要ノアルコトハ自ラ明瞭ノコトト思ヒマス、又例ヘバ此魚族ヲ殖ヤシマスル爲ノ施設ヲ致シマスニ付キマシテモ、他ノ農作物ト著シク事情ガ違ヒマシテ、例ヘバ貝ニ致シマシタ所デ、種貝ノ發生イタシマスル所ト、其種貝ノ大キクナル所ガ、同シ海面ニアリナガラ潮流ノ關係、其他カラ著シク場所ガ違ッテ居ル、一面ニ於キマシテハ種貝ガ腐ッテモ種ヲ分ケテヤラヌ村ガアリマスルト、他ノ方ノ村ハ其所ニハ育ツガ種ヲヤラナイ爲ニ手ヲ空ウシテ居ラナケレバナラヌト云フヤウナコトモ起ル、例ヘバ此有明海ノ如キ、琵琶湖ノ如キ所ニ局部局都ニサウ云フ所ガアリマスノデ、從ツテ各村ノ各自ノ利益ノミヲ、目前ノ利益ノミヲ考慮シテ、判斷イタスコトデハ本當ニ適當ナ解決ガ出来ヌ、全體ニ互ッテ公共的ニソレヲ判斷シテ行カナケレバナラヌト云フヤウナ事情ハ澤山アリマスルノデ、又此社會的ノ方面カラ見マシテモ、又將來水産業ニ於キマシテモ、資本ト労働ノ爭ト云フヤウナコトハ、ドウシテモ免レナイト思ヒマスルシ、又サウ云フ問題モ別ニ致シマシテモ、先程申上ゲマシタ通りニ漁場ノ共通トカ、船舶ノ移動ガ自由デアルト云フヤウナ事情カラシテ、各種爭議モ起リマスル、總テ是等ノ爭議モ一ニ官公吏ノミニ判斷ニ依リ、若クハ時間ト費用等ヲ重ネテ地方裁判所ニ必ズ訴ヘ出デ、サウシテ法律的ノ解釋ノ

ミニ俟ツト云フヤウナコトハ、ドウモ適當ナ解決ガ付
キ憎イ場合ガ少ナクナイ、從ッテ圓滿ナル發達ガ出來
ナイト云フヤウナ事情ガアリマスケレドモ、實ハ此
案ニモ仲裁判斷ノ規定ヲ設ケマシテ、サウシテ當業
者ノ選ンダモノニ仲裁判斷ヲヤラセル、是モ只從來
ノ仲裁判斷デハイケナイ、此案デ申シマスレバ例ヘ
バ水産會長ト云フヤウナ個人ノ判斷ニ俟ツト云フヤ
ウニ致シマスレバ、ソレハ公平ノ判斷ヲ得惜イト云
フ事情ガアリマスノデ、委員會組織ニ致シマシテモ
委員會ノ會議體ガ決定イタシマシタ判斷ハ、縱令會
長ト雖モ勝手ニ自由ニスル事ハ出來ヌト云フヤウナ
權威アルモノニ致シマシテ、サウシテ此海面ナリ、僻
陬ノ地ニ起リマスル幾多ノ爭議ヲ事實上、適切ノ解
決ヲシタイト云フ様ナ規定ヲ設ケマシタヤウナ次第
デアリマス、其他教育的ノ施設ニ於キマシテモ、例ヘ
バ各地ニ交渉ヲ致シマシテ、例ヘバ運輸手ノ養成ニ
致シマシテモ、殊ニ近年魚場ガ遠クナリマスニ從ッテ
船ガ大キクナル、從ッテ學問ノアル船長ヲ乗セナケレ
バナラスト云フヤウナ事情ニナツタノデアリマス、又
石油其他ノ燃料ノ爲ニ「リール」エンヂンノ如キ機
械モ使ハナケレバナラスト、從ッテ機關士ノ養成モシナ
ケレバナラスト、又船ガ沖合ニ出マス時ハ、其轉覆ヲ防
グ爲ニ段々西洋型ニ變ヘナケレバナラスト、ソレニ付
テハ各地方ニ造船所ヲ作ル譯ニ參リマセヌカラ各地
方ノ從來ノ船大工モ成ル可ク西洋型ノ船ヲ造ラセマ
スヤウナ船匠講習ト云フモノモ致サナケレバナラスト
是等ノ事モ皆共同的の公共のニヤラナケレバナカナカ
實效ヲ見ナイト云フヤウナ狀態デアリマス、又此行
政廳ガ調査ヲ致シマシタリ意見ヲ求メタイト云フ場
合ニモ、斯ウ云フ公證人ガ出來テ居レバソレニ建設
サストカ答申サセマストカスレバ、是ハ法律上ノ權
威ト致シテ其權威アリ權限アル答申ナリスルコトニ
致シ、サウシテ此當業者ノ希望ヲ纏メテサウシテ行
政廳ノ參考ニスル、先程申シマシタ英吉利ノ委員會
ト同ジヤウナ精神デアリマス、サウ云フ事ヲヤラセ
マスト云フ事モ此法案ニ特ニ規定致シタ次第デアリ
マスシ、又水面ハ帝國ノ内地ノミデアリマセズ、遠ク
植民地其他ノ處ト直接連接シテ居ル譯デアリマス

カ、此案ニ於キマシテハ内地ノ帝國水産會ノ外、朝鮮
トカ臺灣トカ樺太トカ關東州若クハ其他ノ外國ニ於
テモ、此日本ノ内地ノ規定ニ依リマス水産會ト同ジ
ヤウナ水産會ノ出來マシタ時ニハ、特ニ農商務大臣
ノ許可ヲ經テサウシテ帝國水産會ヘ加入ガ出來ルト
云フ規定ヲ致シマシタノモ、矢張り各海面ト連絡ヲ
十分ニシタイト云フ趣旨デアリマス、以上申シマシ
タ様ナ趣旨ハ何レモ皆公共的の見地カラ當業者ノ自覺
ヲ促シサウシテ斯業ノ發達ヲ期シタイ、斯ウ云フ趣
旨デ作リマシタ、水産ノ方ニハ從來漁村維持ノ爲ニ
若クハ漁業權享有ノ手段トシテ漁場組合ト云フモノ
ガアリマスガ、是ハ全然其組合ノ私益ヲ目的トスル
私的團體デアリマスルシ、又水産組合ハ是ハ同業組
合ト同様デアリマシテ、組合員ノ共同利益ヲ圖ル目
的デアリマス、本案ノヤウナ當業者ノ意見ヲ向上的
の見地カラ纏メサシテサウシテ行政廳ト當業者ノ間ニ
介在シテ自ラ仕事モシ、又一面國策ノ決定ヲ圖リ此
法ノ達成ヲ期スル手段ハ從來全然缺ケテ居リマスノ
デ、政府ハ此法ニ依ッテ組織ヲ全ウシ、之ガ水産上ノ
發達ニ努力シタイト云フ考ヘデ有マス、而シテ法律
ノ作り方ハ大體ニ於キ從來アリマス商業會議所等ト
大差ナイノデアリマス、各條ニ付キマシテハ更ニ別
ノ機會ニ於テ申上ゲタイト存ジマスルガ、兎ニ角公
法人ト云フ組織デ之ヲ作りマシテ、サウシテ參リマ
スルカラ、隨ッテ此會ノ種類ニ致シマシテモ郡市水産
會、縣水産會、帝國水産會等トシテ、行政區域ト大體
一致セシメタヤリト云フモノハ監督上モ便宜デアリ
マスシ、又行政官廳ノ別働隊トシテ働カセマスニモ
便宜デアリマス、又從來ノ漁業權ノ與ヘ方モ府縣別
トナツタ方ガ施行上、御相談ニ便宜ト思ヒマスカラ、
今申シタヤウナ地域の組織ニ致シマシタ、サウシテ
系統的ニ全國ヲ統一シテ郡市カラ縣トナリ、縣カラ
帝國トナルト云フ系統的の統一ヲ圖ルヤウナ組織
ニ致シマシタ、又會ノ機關等ニ付キマシテモ會長副
會長、評議員等ヲ置ク事ニ付テハ普通ノ會ト同ジデ
アリマスガ、議決機關ト致シマシテハ之ヲ代議制ト
致シマシタ、組合員共同ノ利益ヲ圖ルトカ各組合各
自ノ利益ヲ圖ルト云フ性質デアリマセヌカラシテ、

之ヲ代議制度ニ致シマシテ郡市水産會ニハ總代會ヲ
置キ府縣水産會、帝國水産會ニハ總會ヲ置クト云フ
ヤウナ仕方トシマシタ、而シテ此趣旨デ組織致シマ
スノニ付キマシテハ此經費ノ負擔ニ付キマシテハ極
ク少額ノ經費ヲ徵收スル趣旨デアリマスガ、併シ
經費ノ徵收ニ付キマシテハ矢張り規定ヲ要シマスル
ノデ、二十六條ニ於テ郡市水産會ノ會員ニ對シマス
ル經費ニ付キマシテハ、市町村稅ノ例ニ依ッテ之ヲ徵
收スル規定ヲ設ケタノデアリマス、其事ニ付キマシ
テハ是ハ私法人デアリマスル所所謂民事訴訟ニ依リ
マシテ裁判所ニ出訴シテ其會費ヲ取立テル事ガ出來
マスガ、右申シタヤウナ立法ノ趣旨ガ公法人ヲ作ル、
此目的モ公法人トスルノデアリマス、又之ヲ學說ノ
批評ヲ受ケマシテ、從來ノ學說カラ判斷スルトドウ
シテモ公法人デアルト存ジマス、殊ニ大審院ノ商業
會議所ニ對スル判例トシテ斯ウ云フ事ニスレバ斯ウ
シタ法人ハ大審院ニ於テハ公法人ト見ルニ違ヒナイ
ノデアリマス、而シテ大審院ガ公法人ト之ヲ見マス
ル以上ハ、其經費ノ徵收ニ付テ民事訴訟法ニ依ル事
ハ出來ナイ云フ事ハ定ッテ、殆ド疑ナイ次第デアリマ
ス、現ニ御承知ノ如ク、先年商業會議所法ニアリマス
ル經費徵收ノ規定ガ一時削除セラレテ其後復活シタ
コトガアリマス、其削除セラレテ居リマス間ニ商業
會議所ガ此削除セラレタ結果トシテドウモ民事訴訟
法ニ依ル外、方法ガ無イト云フノデ裁判所ヘ出訴シ
マシタ處ガ、結果大審院ノ方ニ於テソレハドウモ公
法人ノ事デアルカラ民事訴訟法ニ依ル事ハ出來ヌ、
所謂經費強制徵收ノ規定ヲ削除サレタ結果トシテ奈
何トモ仕方ガ無イ、法文ガサウナツテ居ル以上ハ已
ヲ得ナイ、其爲ニ公法人ニ對シテ民事訴訟法ヲ認メ
ル事ガ出來ヌト云フモノノデ之ヲ削除サレテ居リマス
間此商業會議所ハ全然經費ヲ徵收スル規定ガ無カラ
タノデアリマス、サウ云フ次第デアリマスルシサウ
云フ判例ガ幾ツカ出テ居ルノデアリマスカラ、此法
案ガ實行サレタ曉ニハ矢張り公法人ト見ラレ隨ッテ
此民事訴訟法ニ依テ會費ヲ取立テルコトハ出來ナイ
コトニナル事ハ明カダト存ジマス、隨ッテ此市町村稅
ノ例ニ依ッテ所謂行政訴訟法ヲ認メル外ナイノデア

リマス、強制徴収ト申シマスケレドモ民事訴訟法ニ於テモ結局強制執行ナノデアリマスカラ、強制タル點ハ同ジデアリマス、唯民事訴訟法即チ司法上ニ依ルカ、市町村稅即チ行政處分ニ依ルカト云フ事ニ過ギナイト存ジマス、而シテ性質上到底司法處分ニ依ルコトガ出來ヌトスレバ、行政處分ニ依ル外ナイ、併シ尙行政處分ニ依リマス上ニ於テハ屢々弊害ノ生ズルコトガ無イト限リマセスカラ、其點ハ十分注意シテ本案ニ致シタ積リデアリマス、第一設定ノ時カラ言ヒマシテモ地方長官ナリ農商務大臣ナリ、相當ノ權限アリ權威アル官長ニ於テ之ヲ取扱フコトニ致シテ居リマシテ、郡長等ニ任ジテ置キマセヌシ、又收支豫算ヲ立テマストカ又經費ノ徵收方法等ヲ議決致シマシタ時ニ單ニ其會ノ議決ノミニ依ッテ直グ取ラセマセヌデ、地方長官ナリ又農商務大臣ノ認可ヲ經ナケレバ、其議決ノ效力ヲ生ジナイト云フコトニ依ッテ監督ヲ致シマスシ、又一旦議決シタ後ニソレヲ認可致シマシテ、其ノ後ニ於テ不都合ヲ發見シタ時ニハ、又監督官長ハ收支豫算ナリ經費分賦收入ノ方法ノ變更ヲ命ジ得ル途ヲ開イテアリマス、誠ニ行政官長ノ監督ノミナラズ、此當業者自身ハ其經費ノ賦課ニ付テ異議ノ申立テヲ致シ、又訴願訴訟等ヲ爲ス途ヲ特ニ開イタノデアリマス、從來ノ徵稅徵收法ノ規定ニ於キマシテハ其異議ノ申立テハ出來ナイ、其異議ノ申立テノ裁決ニ對シテ不服ガアツテ大審院ニ訴願シ、或ハ行政裁判所ニ出訴スル途ハ從來ノ所謂徵稅徵收法ニハ先ヅ開イテ居ナイヤウニ思ヒマス、ソレ等ノ點モ從來ノ儘デハ面白クナイコトデアリマシテ、本案ニ特ニ其點ヲ注意イタシタ積リデアリマス、經費徵收ニ付テハ公法人タル性質上、已ムヲ得ズ規定シタノデアリマス、而シテ實際上ノ便宜ハ無論アリマ

ナ金額、唯今豫想シテ居リマス所デハ、極ク少ク見マシテ、一年一人平均五十錢位ナ會費ト致シマシテ、漸次發達スレバ殖ヤス積リデアリマスガ、先ヅソコラノ邊カラ始メサセタイト考ヘテ居リマス、郡市住民ニ課ケルノデアリマスカラ、其爲ニ多大ナ負擔ヲサセテ迷惑ヲサセルト云フ事ハ先ヅ無カラウト思ッテ居リマス、又此經費ノ補助ニ付キマシテハ、國庫補助ト致シマシテ、此十年度ノ豫算ニ一万三千圓程ノ豫算ガ計上シテアリマス、其中八千百圓ノ補助費ヲ與ヘマス、是ハ極メテ少額デアリマスカラ、ソレハ本法ガ幸ニ成立シテ漸次水產會ヲ造ッテ行クニ付テ、年度ノ終リニ漸次造ルノデアリマスカラ、本年度ハ比較ノ少ク見積リマシタ、平年ニナリマシタラ毎年五萬圓位ナ補助金ヲ出スヤウニ大體豫定シテ居ル様ナ次第デアリマス、尙ホ農會等ニ地方費ノ方カラ補助ヲヤッテ居ル例ハ非常ニ多イノデアリマス、又其他ノ團體ニ關シテ地方費補助ノ例モアリマスカラ、幸ニ此水產會法ガ成立シマスレバ、地方カラモ相當ノ補助ガアルモノト豫定シテ居リマス、財政狀態ノ大體ハサウ云フ風ニシテヤッテ行カウト思ッテ居リマス、極ク大體ヲ申上ゲタノデアリマスカラ、尙ホ各條ニ付テハ追々申上ゲタイト考ヘマス

○委員長(伯爵吉井幸藏君) ソレデハ先刻御相談イタシマシタヤウニ、今日ハ唯今ノ政府委員ノ説明ニ止メテ置クコトニ致シマス、次回ハ彙報ヲ以テ申上ゲマス

午後二時十五分散會

出席者左ノ如シ

委員長	伯爵吉井	幸藏君
副委員長	西久保	弘道君
委員	子爵伊集院	兼知君
	子爵米津	政賢君
	荒川	義太郎君
	男爵本田	親濟君
	男爵赤松	範一君
	平尾	喜三郎君

政府委員

農商務省水產局長 村上

隆吉君